

1

活力ある産業と雇用を創出し魅力に満ちたまちづくり

Yatsushiro city

【35】

農業の振興

関連 SDGs

SUSTAINABLE
DEVELOPMENT
GOALS



施策の概要

農業においては、担い手の確保・育成をはじめ、安全・安心な品質の高い農産物の生産や消費者ニーズに応じた生産、農村環境の整備が、振興を図る上で重要な課題となっています。そのため、担い手の育成、スマート農業の推進、ブランド化、生産性の向上等、生産環境の充実に努めます。

成果指標

指標名	現状値 (R2)	目標値 (R7)
八代市は農業が盛んであると感じる市民の割合	30.1%	32.1%
農林水産業の担い手が確保されていると感じる市民の割合	14.6%	15.6%
人・農地プランにおける中心経営体数	1,361 経営体	1,410 経営体
農業者総所得額	39 億円	47 億円
先端技術を活用した補助事業の件数 (累計)	26 件	51 件
担い手農家への農地集積率	69.0%	80.0%

施策の方向

(1) 担い手の確保・育成

[現状]

- 農業委員会や関係機関と連携し、人・農地プランの実質化を行い、地域農業の将来の方向性を定め、担い手への農地の集積を進めています。
- 認定農業者制度の普及・啓発を推進するとともに、農業者に対して農業経営・簿記や農業技術者養成講座などの各種研修を実施し、安定経営の確立や農業者の技術向上を図っています。
- 経営が不安定な就農初期段階の青年農業者に対して農業次世代人材投資資金(経営開始型)を交付し、就農意欲の喚起と就農後の定着を図り、次世代を担う人材となる農業者の確保に努めています。
- 就農直後の農業者をはじめ、経営課題を抱える農業者への指導、支援及び認定農業者等の相談業務・支援業務を行っています。特に、就農2年以下の就農者に対しては、訪問の頻度を増やし重点的なフォローを実施しています。

[課題]

- 担い手の確保や育成に一定の成果が出ているものの、高齢化や後継者不足に歯止めがかからず、人材確保が課題となっています。担い手の確保・育成につながる効果の高い事業の創設が必要です。
- 担い手不足が顕著な中山間地域等においては、担い手の育成と併せて、離農により未利用となった農地の受皿を確保する必要があります。
- 令和2年7月豪雨災害により被災した地域では、今後の復旧・復興の状況に合わせた事業の見直し等が必要です。

■ 農業就業人口の推移と若手、高齢者の割合 単位：人

	H12年	H17年	H22年	H27年	R2年
農業就業人口	11,608	9,751	8,034	6,829	5,810
18歳以下割合	7.8%	6.3%	5.0%	4.3%	4.6%
75歳以上割合	44.1%	49.7%	53.2%	57.6%	56.9%

[施策の内容]

- 経験の浅い農業者や就農を希望する高校生を対象とした研修事業や交流事業の実施により、新規就農者の確保や育成、女性農業者の農業経営参画を推進します。
- 認定農業者制度の更なる周知を図るとともに、農業経営に必要な知識・技能習得の支援や経営力向上につながる事業の充実を図り、認定農業者の確保及び育成に努めます。
- ICTなどを活用したスマート農業の取組を支援し、高齢化や担い手不足にも対応できる新たな生産体制の構築を促進します。
- 農地の受皿となる認定農業者や集落営農組織などの地域内の合意に基づく中心経営体を育成し、農地の集積を進めながら地域農業の生産性向上や生産活動の維持に取り組みます。
- 中山間地域等においては、将来にわたり農地を保全し、持続可能な農業経営を行うために、担い手等の育成と併せて農地の集約化を進めていきます。
- 農地バンクなどを活用し、遊休農地や離農による空き農地などの円滑な集積につながる事業を継続していきます。
- 生産性向上や所得安定化につながる支援と併せて、地域外からの労働力・人材確保につながる支援に取り組み、持続可能な中山間地域農業の実現を目指します。
- 災害からの創造的復興を目指し、関係団体と連携しながら、必要な支援を継続していきます。

■ 関連計画

農業の有する多面的機能の発揮の促進に関する計画／農業経営基盤の強化の促進に関する基本的な構想

施策の方向

(2) 需要に応じた農産物の生産振興

[現状]

- 本市の農業生産は、平野部では、主に水稻、い草、施設野菜、露地野菜が生産され、中山間部では水稻のほか、果樹や生姜、茶などが生産されています。中でも、い草、冬春トマト、晩白柚は日本一の生産地となっています。
- 消費者の安全・安心へのニーズや環境への関心の高まり等に対して、土壌の分析を進め、化学肥料や化学農薬使用低減等の取組である環境保全型農業推進事業を実施し、環境に配慮した農業を推進しています。
- 品質の特性が産地と結びついている農産物について、地理的表示（GI）保護制度※への登録申請を支援し、い草、晩白柚、生姜、塩トマトがそれぞれ登録されています。

[課題]

- 地域の農業に対する理解や認知は十分とは言えず、更なる生産振興を図るために、市民の地元農産物への理解を深めていく必要があります。
- 地球温暖化防止や水資源の涵養等、SDGsの観点等から、農業の生産性の向上と環境保全を両立させる必要があります。
- い草・晩白柚・生姜・塩トマトについては、地理的表示（GI）保護制度に登録されましたが、消費者等への周知が進んでいません。本市で生産される各種農産物について、プロモーション等を展開することも必要です。

[施策の内容]

- 市民の地元農産物への理解を深めるために、地元農産物を活用した食と農業に関する知識・体験を含んだ取組を通して、地産地消の推進を図ります。
- 持続可能な農業を展開していくため、農業関連団体と行政が「八代市の農業の将来像」について議論する場を創出し、様々な取組について検討・実証を進めます。
- 環境に配慮した農業を展開するため、省エネ型施設園芸設備の導入や化学肥料・化学農薬使用を低減する環境保全型農業の更なる推進を図ります。
- 土壌分析診断への支援や診断結果の活用を促し、化学肥料や化学農薬の使用量低減による経費削減や土壌環境の最適化による生産性向上を図りながら、環境に配慮した持続可能な農業生産を推進していきます。
- 地理的表示（GI）保護制度に登録された農産物については、消費者への周知・啓発活動を行い、ブランド力向上及び販売の促進を図ります。

■ 関連計画

農業の有する多面的機能の発揮の促進に関する計画

※地理的表示（GI）保護制度…伝統的な生産方法や産地等の特性が品質等の特性に結びついている商品の名称を、知的財産として農林水産省に登録して保護する制度。

施策の方向

(3) 農業生産性向上による経営の安定

[現状]

- 農業従事者の高齢化や後継者不足などにより、遊休化した農地や、遊休化が懸念される農地については、農地バンクを通して農地の貸し借りを進めています。
- い草の生産に必要な機械類（い草ハーベスタ、い草移植機、い草苗処理機）の導入を図っています。また、い草関連機械のオーバーホールに対して一部補助を行うことにより、い草機械の長寿命化等に取り組んでいます。
- 生産者情報を消費者が確認できるQRコード付きタグのデザインを刷新し、生産者によるタグ挿入の推進を行っています。また消費者等へもタグのPRを行っています。
- 産地の高収益化及び生産基盤の強化を図るため、耐候性ハウスや野菜集出荷施設等の施設整備、野菜移植機やコンバイン等の機械導入に対する支援に取り組んでいます。
- 農作物への有害鳥獣被害対策として、防護柵設置の取組に対して支援を行っています。

[課題]

- 集積面積は順調に増加してはいるものの、農地の受け手の確保が難しくなっています。荒廃した農地は、再度農地として利用することが困難なことから、耕作放棄地解消の取組の推進と併せて、発生の未然防止対策が必要となっています。
- い草関係の機械については、生産が終了したものもあることから、専用機械の再生産や適切な整備点検による長寿命化に引き続き努める必要があります。
- い草生産に関しては、初期投資がかかること等により新規参入が難しく、生産者の高齢化も進むことから、担い手の確保が課題となっています。
- ICT、AI等のデジタル技術を活用した「スマート農業」を推進し、省力化・省人化による労働生産性の向上、流通システムの効率化、生産量の増大などに取り組む必要があります。
- 近年、鳥類被害の増加が、生産者の経営を圧迫し、営農意欲を低下させる原因となっており、被害防止対策の強化が必要です。

[施策の内容]

- 農地バンクを活用し、耕作放棄地や離農による空き農地などのマッチングによる貸し借りを推進し、農地の有効活用を進めます。
- 農地集積による担い手の経営規模拡大、生産性の向上の取組を支援します。
- 農業委員や農地利用最適化推進委員と連携し、定期的に農地の利用状況を把握し、必要に応じて所有者に対して適正管理を周知啓発していきます。
- 国・県が実施する各種資金制度に対する利子補給事業の取組を推進します。
- 気象災害等により被災した農業者に対して、関係機関と連携し必要な支援を迅速に行います。
- い草関係機械については、産地継続のため今後も国・県・市・関係団体等と連携しながら計画的に支援対策を行います。また、い草生産における担い手の確保については、法人化や集落単位の組織化を進めます。
- スマート農業の推進については、国や県が実施する事業を活用しながら生産者のニーズに沿った取組を支援します。
- 鳥類被害対策については、生産者と行政が一体となって被害防止に向けた新たな取組を実施するとともに、その他の被害対策についても、継続して実施します。

■ 関連計画

水田収益力強化ビジョン／産地パワーアップ計画

施策の方向

(4) 農村環境の整備

[現状]

- 各種の補助事業等を活用し、農地、用排水路、農道、排水機場等の農業生産基盤整備を行っています。
- 自然環境の保全や良好な景観の形成といった農業・農村の持つ多面的機能の維持・発揮を図るため、農地・水路・農道等農業生産基盤の維持管理や長寿命化等の取組を行っています。
- 農業集落排水処理施設の整備は完了し、施設の維持管理を行っています。

[課題]

- 農業生産基盤の整備については、地域から多くの要望があるため、緊急性や優先度を精査し、より多くの要望に応えていく必要があります。
- 高齢化、少子化、混住化等に伴う農村の集落機能低下により、農業生産基盤の維持管理等に支障が生じつつあるため、農業者だけでなく地域全体で取り組む必要があります。
- 農業集落排水処理施設の経年劣化による故障などが見込まれるため、長期的に安定した事業運営が求められます。

[施策の内容]

- 採択要件等を十分説明し市民の理解を得たうえで、各種補助事業をさらに有効活用し農業生産基盤の整備を推進します。
- 補助事業を活用し地域の共同活動と広域化に係る支援を行うことにより、自然環境の保全や良好な景観の形成、農業生産基盤の維持管理等の取組を推進します。
- 農業集落排水処理施設や管路の長寿命化対策、長期的に安定した事業運営や経営状況を正しくとらえるため、地方公営企業法の適用を進めます。

■ 関連計画

八代市農業集落排水処理施設事業経営戦略／農業集落排水処理事業機能診断・最適整備構想／農業の有する多面的機能の発揮の促進に関する計画



農地が広がる八代平野

Yatsushiro city

【36】

林業の振興

関連 SDGs

施策の概要

林業の担い手を確保するため、労働環境の改善や林業の魅力発信に取り組みます。また、ICTの活用、林業と建設業との連携拡大等により雇用の場を確保し、生産基盤を充実させ、森林の保全、育成を通じて、林業の振興を図ります。

成果指標

指標名	現状値 (R2)	目標値 (R7)
農林水産業の担い手が確保されていると感じる市民の割合	14.6%	15.6%
素材生産量※	10 万m ³	11 万m³
林道の法面崩壊危険個所の減少	26 箇所	0 箇所
林道の舗装率	86.0%	88.0%

※素材生産量…立木を伐採し、枝葉等を取り除いた丸太の生産量のこと。

施策の方向

(1) 担い手の確保・育成

[現状]

- 令和2年6月に林業関係者、県、市による「やつしろの山づくり推進協議会」を設立し、林業関係教育機関を構成員に交えて担い手対策について具体的な対応策を協議しています。

[課題]

- 林業者の賃金の安定・所得向上、重労働の軽減化及び安全性の向上を図る必要があります。

[施策の内容]

- 労働環境改善のために、ドローン等を活用したスマート林業を推進します。
- 女性労働者確保に向けた林業労働環境の改善にも努めます。
- 林業関係教育機関と連携して各種研修等を実施していきます。
- 林業と建設業との更なる連携拡大により、多様な林業の担い手と山村地域の雇用の場の確保などを県と共に進めていきます。
- 林業に関する魅力について、積極的にSNS等を通じて発信していきます。
- 子ども達に木の大切さや木材を使うことの意義を伝えるため「木育」を実施していきます。



協議会の様子



木育体験教室の様子

施策の方向

(2) 林業生産基盤の充実

[現状]

- 林業の生産基盤を保持するために、林道舗装を進めています。また、災害時の迂回路機能のある林道についても、計画的な整備を進めています。

[課題]

- 令和2年7月豪雨により甚大な被害を受けた林道施設の早急な災害復旧に努め、舗装や改良事業を計画的に実施していく必要があります。
- 林業を継続していくためにも、林業の生産性向上を図る林道などの基盤整備については、継続的に実施する必要があります。

[施策の内容]

- 豪雨災害等により被害を受けた林道の早期復旧に努めます。
- 森林整備促進や木材生産拡大のため、また、山間部の生活道路の機能と災害時の迂回路機能強化のため、法面改良や舗装などの林道の整備を図るとともに、維持管理に努めます。

■ 関連計画

「やつしろ・いつき」豊かな地域資源を活かした個性きらめく地域再生計画



林道舗装



林道災害

施策の方向

(3) 林業経営の安定

[現状]

- 森林の荒廃や山地災害を防止するため、森林の境界や所有者の特定を進め、森林の状況の把握に努めています。また、森林経営管理制度に基づく森林所有者の意向調査を実施しています。
- 「木の駅」については個人会員が増加し、地域の木材集荷基地としての機能が発揮できるようになってきています。

[課題]

- 森林所有者の特定作業が難しくなっており、関係部署と連携して取り組んでいく必要があります。
- 市内で生産された木材は市内で利活用できるよう、木材の需要拡大を図る必要があります。
- シカによる苗の食害や皮剥ぎ被害などに対応するため、有害鳥獣被害対策を継続して進める必要があります。

[施策の内容]

- 森林経営管理制度に基づく意向調査の結果を林業事業者等と共有し、間伐などの森林整備を進め、健全な山づくりに努めます。
- 木造住宅への補助や、木の駅による間伐材や未利用材などの集荷を進め、八代産材の利用拡大を図ります。
- 林産物被害を低減するため、有害鳥獣の捕獲技術の向上に向けた取組を進めるとともに、ICTを活用した被害防止対策にも取り組めます。



木の駅



素材生産の様子

施策の方向

(4) 森林の保全・育成

[現状]

- 森林の機能を維持するため、森林組合等の林業事業体による植栽、下刈り、間伐などの事業を行っています。
- 緑の募金を活用した緑化推進活動や木育活動を行うことにより、市民へ森林の大切さや木を使うことの意義などを啓発しています。

[課題]

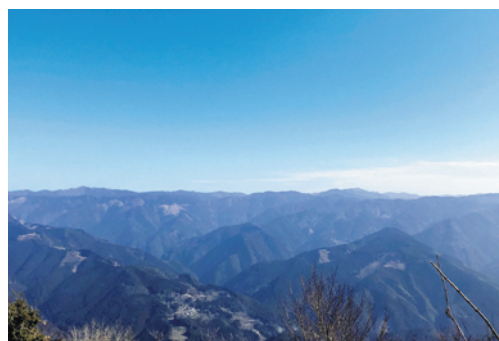
- 伐採される森林が増加、広大化していることから、伐採後の造林計画に基づき、適切な森林整備を実施する必要があります。
- 森林の持つ多面的な機能やレクリエーション機能を発揮できるよう、適切な森林の保全・育成に結びつく啓発活動、イベントなどを進めていく必要があります。

[施策の内容]

- 植栽、保育、間伐などの造林事業については、国・県補助事業を活用し、適切な森林整備を推進します。
- 森林には、二酸化炭素吸収機能や災害防止機能などの多面的な機能があり、この森林を守り育てていくことが必要であるということを、イベント等を通じて啓発していきます。



水とみどりのふれあいスクールの様子



豊かな森林資源

【37】

水産業の振興



施策の概要

本市の水産業を取り巻く環境は非常に厳しく、漁業による安定的な生計が立てられない状況にあります。新規就業者とのマッチング、スマート水産業の導入等により状況の改善を図っていきます。また、6次産業化、放流効果が見込める栽培漁業を推進することにより経営の安定化を図ります。

成果指標

指標名	現状値 (R2)	目標値 (R7)
農林水産業の担い手が確保されていると感じる市民の割合	14.6%	15.6%
アサリの漁獲量	20 トン	230 トン
八代市水産物の品質向上及び高付加価値に資する取組	0 件	2 件
新規就業者数	0 人	1 人

施策の方向

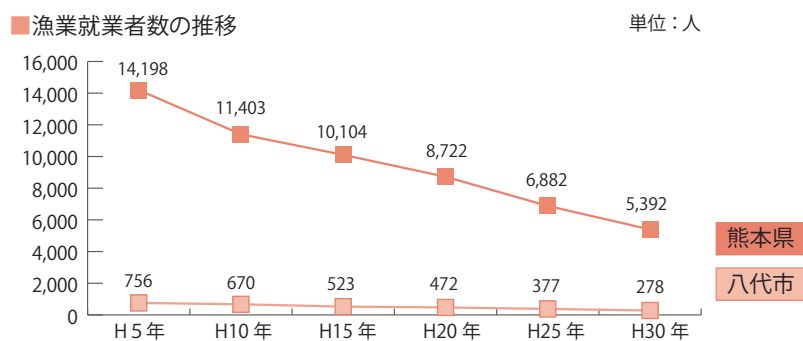
(1) 担い手の確保・育成

[現状]

- 担い手の確保と育成を目的として、豊富な知識と経験を有したアドバイザーによる新規就業希望者とのマッチングや技術支援を行っています。
- 各漁協に対し、新規就業希望者に対する支援制度の周知を図っています。

[課題]

- 水産業を取り巻く環境は非常に厳しく、漁業による安定的な生計が立てられないことなどから、近年、本市への新規就業希望者がいない状況にあるため、稼げる水産業に向けて、先進技術の導入等を図っていく必要があります。



[施策の内容]

- 漁業者の高齢化と減少が進む中、スマート水産業に取り組み、漁業の効率化と経営安定、及び安全性の向上を図ります。
- 新規就業希望者に対し、熊本県「未来の漁村を支える人づくり事業」における、マッチング支援事業、新規就業者育成支援事業、新規就業者定着支援事業などの支援制度の周知を行います。

■ 関連計画

八代市水産振興ビジョン

施策の方向

(2) 水産業生産基盤・環境の整備

[現状]

- 漁場環境や生態系保全のため、水産多面的機能発揮対策事業を実施している活動組織や、安全な船舶航行を図るための航路標識設置に取り組む漁協に対し、支援を行っています。
- 海域環境の変化によりアサリの漁獲量が減少しています。県営覆砂事業において、アサリ漁場の造成、ナルトビエイの捕獲によるアサリ等の食害対策を行っています。
- 水産基盤整備交付金事業により、漁協が所有する漁船や漁港外灯の修繕、漁場の耕うん、航路整備を実施しています。

[課題]

- 令和2年7月豪雨により、アサリの成貝がへい死するなど甚大な被害を受けたことから、早期の水産資源の回復を図る必要があります。
- 漁船の航行に関しては、安全な交通を確保する観点から、継続的な航路標識設置が必要です。
- 植柳漁港は漁港整備後27年、大鞘漁港は30年以上経過し、老朽化が進行していることから、機能保全を図る必要があります。
- 漁港施設の老朽化に伴い、補助事業等の採択要件に適合しない小規模な修繕等が増加する傾向にあることから、計画的な修繕が行えるよう整備費の平準化を図る必要があります。

[施策の内容]

- 漁場環境・生態系保全を目的とした、水産多面的機能発揮対策事業の活動を支援し、令和2年7月豪雨で被害を受けたアサリ等の水産資源の回復に取り組む活動組織の充実化を図ります。
- 漁場保全に資する漁場清掃と安全な船舶の航行を図るための、各漁協が行う航路標識設置に対し支援を行います。
- 老朽化が進む市管理漁港について、計画的に補修工事を実施し施設の長寿命化を図ります。
- 漁港施設の小規模な修繕等は、水産基盤整備交付金事業等により、計画的な整備を実施します。

■ 関連計画

大鞘漁港機能保全計画書



アサリ



アユ



ガザミ



ヒラメ

施策の方向

(3) 漁業経営の安定

[現状]

- 地域水産業活性化支援事業により、水産業者等が取り組む八代水産物の「品質・生産向上」、「高付加価値化」、「6次産業化」に係る経費に対し支援を行っています。

[課題]

- アサリやアオノリ等、付加価値の高い水産物においては、販売ルートの拡大と商品のブランド化を図り、地域水産業を活性化させる必要があります。
- 生活様式や食生活の変化に伴う、家庭内における魚料理（魚食）離れに対し魚食普及を図り、漁業所得の向上につなげる必要があります。

[施策の内容]

- 水産業者等が、水産業の活性化に取り組む活動に対し、支援を行います。
- 魚料理（魚食）離れの対策として、魚食普及推進活動を行う熊本県魚食普及推進協議会に引き続き参画し、県内の保育所から高校、一般向けに魚料理教室を開催します。



料理教室の様子（魚食普及）



稚鮎放流の様子

(4) 栽培漁業の推進

[現状]

- 稚魚（ヒラメ・アユ・ウナギ等）及び稚エビ（クマエビ・ヨシエビ等）の放流事業を実施しています。

[課題]

- 漁場環境の変化等の影響で、水産資源が減少傾向にあることから、水産資源の回復を図るため、稚魚や稚エビの放流を計画的に行う必要があります。

[施策の内容]

- 放流効果が高い種苗や漁家経営の安定につながる種苗への切り替えなど、栽培漁業による「つくり・育てる」漁業を進め、水産資源の回復を図ります。

【38】

商業の振興

関連 SDGs



5
ジェンダー平等を
実現しよう


8
働きがいも
経済成長も


9
産業と技術革新の
基盤をつくろう


11
住み続けられる
まちづくりを


17
パートナーシップで
目標を達成しよう


施策の概要

新型コロナの影響により、中心市街地や各地域でのイベントが中止となるなど人の流れが減少し、事業所の経営が悪化していることから、新庁舎やお祭りなどでん館などを活用して、新しい人の流れを創出し、活性化につなげていきます。また、長期的な視点を持ち、都市機能の集積を進め、中心市街地などの活性化や商工業の活性化を図ります。

成果指標

指標名	現状値 (R2)	目標値 (R7)
中心市街地が賑わっていると感じる市民の割合	5.1%	10.0%
地域（地元）商店街が賑わっていると感じる市民の割合	6.2%	10.0%
中心商店街の歩行者・自転車通行量	6,327 人	9,500 人

144

Y A T S U S H I R O C I T Y M a s t e r p l a n

施策の方向

(1) 魅力ある商店街づくりの促進

[現状]

- 中心市街地などの活性化を推進するため、まちなか活性化協議会などの団体が実施する事業に対し支援を行っています。
- 新型コロナ感染拡大の影響で、事業所の経営状況が急速に悪化しています。
- 新型コロナの影響で売上げが減少した事業所に対し、支援金を支給するとともに、新型コロナの感染予防対策を実施した事業所に対し、補助金を交付しています。
- 後継者不足や高齢化などを理由に事業の継続が困難となり、廃業する事業者が顕在化してきています。

[課題]

- 新型コロナの感染拡大の影響で、中心市街地などでの集客イベントの多くが、縮小、中止になっています。
- コロナ収束の見通しができないため、今後も多種多様な業種の事業者への支援は必要になると思われます。
- 経済活力の維持、雇用の確保のため、事業継承への早急な対応が求められています。

[施策の内容]

- 商店街で開催される集客イベントへの補助を行うとともに、空き店舗への出店に係る改装費などへの支援を行います。
- 市役所新庁舎やお祭りなどでん館などへの来訪者を巻き込んだイベントの開催ができるよう、必要な支援を行います。
- 事業継承などの経営相談については、八代商工会議所や八代市商工会と連携しながら、サポートに努めます。



本町アーケード

施策の方向

(2) 中心市街地の活性化

[現状]

- 新型コロナの影響による各イベントの中止、延期、縮小が続いています。
- 新型コロナ感染防止対策を行いながらイベントの実施等により中心市街地に人流を創出し、滞在人口や交流人口を増加させるための取組を実施しています。

[課題]

- 長期的な視点を持ち、中心市街地の活性化に向けた取組が必要です。
- 新型コロナにより落ち込んだ中心市街地への人流を回復させることが不可欠です。
- 市役所新庁舎やお祭りでんでん館の開業により、中心市街地の環境や人流の変化が期待されているため、こうした変化にどのように対応するかが課題となっています。
- 「新しい生活様式」に適應する新たなイベントのあり方を検討する必要があります。

[施策の内容]

- 中心市街地の賑わいづくりの一環として、日常的に人が往来する仕事や学びの場を集積していきます。
- 市役所新庁舎開庁により、中心市街地の環境や新たな人流が期待されるため、こいこい広場やがらっぱ広場などを活用したイベントの開催支援に努めます。
- 中心市街地の賑わいづくりのため、既存イベントの会場として新庁舎を活用する案を検討します。
- 市民が安心してイベントに参加できるよう、情報収集に努め、適切な安全対策に取り組めます。



こいこい広場



がらっぱ広場

Yatsushiro city

【39】

地域産業の活性化

関連 SDGs

施策の概要

新型コロナは地域産業※に大きな影響を与えていますが、リモートワーク、サテライトオフィス、ワーケーションという新しい動きを生み出しています。こうした流れを捉え、地域産業の振興、企業誘致などにつなげていきます。また、必要な設備投資などに対する支援を実施し、人材の育成や雇用の確保を含めた多様な事業に取り組みます。

成果指標

指標名	現状値 (R2)	目標値 (R7)
市内で働くに当たり、自分が求める職種や企業があると感じる市民の割合	9.9%	15.0%
若者・子育て世代(20歳～34歳)が5年後に帰ってくる人数	351人	360人
市内高校の新卒者が管内に就職したいと思う割合	37.1%	40.0%
事務的職業及びIT関連職業の求人倍率	0.46倍	0.50倍
企業振興促進条例及び情報通信関連企業立地促進補助金の申請企業数(累計)	5件	30件
未来創造塾受講生の新規事業実施率	0.0%	50.0%

※地域産業…本計画では、農林水産業や製造業、商業、サービス業など、市内の産業全般のことをいう。

施策の方向

(1) 地域での雇用・就労の促進

[現状]

- 新型コロナの感染拡大による経済、雇用不安が起きている一方、都市部の企業がリモートワークの推進、サテライトオフィスの活用、ワーケーションを推進する等、多様な働き方が広まりつつあります。
- 求職者の希望が多い、事務的職業、IT 関連職業の企業に対し、企業誘致活動を展開するとともに、人材のスキルアップについても支援を行っています。
- 地域産業の魅力高めるため、「やつしろ未来創造塾」による若手経営者の新事業創出を支援しています。
- DXによる八代圏域ツナガル推進事業として、若年層の圏域内定着を促進するため、圏域内企業の魅力発信やU/Iターン者に対する支援を実施しています。

[課題]

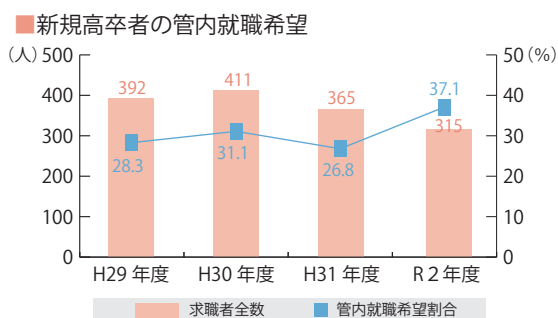
- IT関連企業等を中心に、地方移転、地方在住者・移住者の採用に前向きな企業が増加傾向にあり、こうした時流を捉え、企業の誘致や振興、雇用の確保の取組を行っていく必要があります。
- 新型コロナ対策については、商工会等の関連団体と情報を共有し、連携しながら対応していくことが求められます。
- 熊本高専八代キャンパス、八代圏域産業振興協議会、八代商工会議所等の関連団体間の連携の強化を促すことにより、地域のニーズを掘り起こし、その事業化を促進することで地域産業の活性化を図ることが求められます。
- 若年労働者が不足している産業がみられます。

[施策の内容]

- IT 関連企業等、地方移住に前向きな企業を受入れていくとともに、市内求職者の選択肢を拡げ、雇用の確保が図られるよう企業誘致に取り組みます。
- 経済関連団体と情報を共有し、連携して、新型コロナ対策に取り組みます。
- 教育機関や経済関連団体等と連携し、地域産業を活性化する取組やU/Iターンを促進する取組を推進します。

■ 関連計画

八代市まち・ひと・しごと創生総合戦略／地域再生計画 (DXによる八代圏域ツナガルプロジェクト)／フードバレーやつしろ基本戦略構想



やつしろ未来創造塾

施策の方向

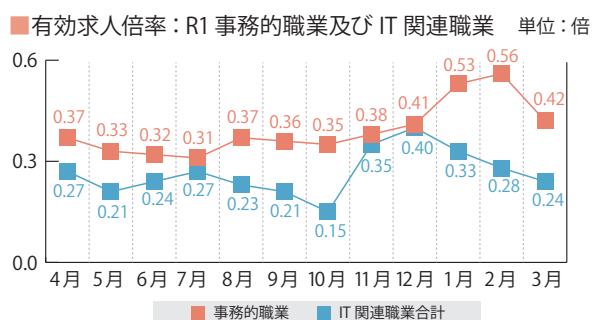
(2) 地場企業の育成

[現状]

- 地場企業の育成については、企業に八代市企業振興促進条例に基づく支援制度等を紹介し、設備投資を促しています。
- 産業活性化人材・企業育成支援事業により、従業員や経営者の研修受講料等に補助金を交付しています。
- 八代市産業振興協議会の活動エリアを八代圏域に拡大し、名称を八代圏域産業振興協議会に変更しました。地場企業や熊本高等専門学校と連携し、圏域内で産業振興を図る活動を展開しています。
- 未来チャレンジ企業創出支援事業及び未来創造塾運営事業により、企業を牽引する企業の成長を支援しています。
- 地域産業の魅力を高めるため、「やつしろ未来創造塾」による若手経営者の新事業創出を支援しています。
- DXによる八代圏域ツナガル推進事業として、圏域内企業のDX推進等を実施しています。

[課題]

- 市内の企業においては、DXやデジタル化での産業振興への不安があるため、企業がDXやデジタル化に対応でき、新しい技術にキャッチアップできるよう適切な支援を行う必要があります。
- 商業分野では、コロナ禍の影響が色濃く、危機を乗り越えるためにも、しばらくは積極的な支援が不可欠となっています。



[施策の内容]

- 企業のDX推進を図る取組を支援します。
- 企業が新規事業にチャレンジするなど、積極的に付加価値を高める取組に対して支援します。
- 八代市企業振興促進条例に基づき、企業が設備投資をしやすい環境を整備します。
- 従業員や経営者のスキルアップを図るため、研修受講等に対して支援を行います。
- 企業誘致による進出企業と地域産業の連携を促し、DX推進による生産性向上や業務効率化等に取り組みます。
- 八代圏域産業振興協議会の活動を支援し、圏域内企業と熊本高等専門学校の連携による、新たな価値の創出を図ります。

■ 関連計画

八代市まち・ひと・しごと創生総合戦略／地域再生計画(DXによる八代圏域ツナガルプロジェクト)／フードバレーやつしろ基本戦略構想

施策の方向

(3) 企業誘致の推進

[現状]

- 企業誘致については、企業訪問、情報発信など、県や関係機関とも連携し、誘致活動を展開しています。
- 平成30年度、令和元年度は、いずれも企業の投資件数が合併後最多の17件を記録しています。令和元年度以降、情報通信関連企業の進出も相次ぎ、求職者の選択肢拡大にも寄与しています。
- 近年取り組んできた情報通信関連の企業誘致及び人材育成に加え、関係人口を創出・拡大するために取り組んできた情報発信が功を奏し、中心市街地を中心に産業の集積が進んでいます。

[課題]

- 新型コロナの感染拡大による経済、雇用不安が起きている一方、都市部の企業ではリモートワークの推進やサテライトオフィスの活用等、多様な働き方が広まりつつあります。また、IT関連企業等を中心に、地方移住に前向きな企業が増加傾向にあるため、こうした時流を捉え、企業の誘致や振興、雇用の確保の取組を行っていく必要があります。
- 進出や規模を拡大する企業が必要とする人材を確保できるよう行政の支援が求められています。
- 八代外港工業用地が完売しており、新たな企業進出に応える産業用地の確保が求められています。また、農林水産部、建設部等と連携し、企業が進出する際の用地確保にスムーズに対応できる体制が必要です。

[施策の内容]

- これまで取り組んできた情報通信関連の企業誘致、人材育成及び情報発信を継続し、更なる産業の集積を図ります。
- 企業が進出を検討する際の用地・物件確保について、速やかな対応ができるよう関係部署・関係機関との連携を進めます。

■ 関連計画

八代市まち・ひと・しごと創生総合戦略／地域再生計画(DXによる八代圏域ツナガルプロジェクト)／フードバレーやつしる基本戦略構想



SUNABACO |

Yatsushiro city

【40】

農林水産物等の販路開拓・販路拡大

関連 SDGs							
---------	--	--	--	--	--	--	--

施策の概要

新商品開発については、付加価値を高めるため、消費者の動向を把握しながら、6次産業化やブランド化を進めます。また、EC※サイトを活用し、国内だけでなく、国外にも目を向けた販路開拓・販路拡大を進めていきます。

成果指標

指標名	現状値 (R2)	目標値 (R7)
八代市の農林水産物や加工品などのブランド化が進んでいると感じる市民の割合	27.2%	37.2%
八代市の農林水産物、加工品などが都市部や海外で販売されていることを知っている市民の割合	50.8%	60.8%
市外食品製造メーカー等との新規取引件数	35 件	50 件
販路拡大のための商社的機能を持った拠点数	0 件	3 件

※ E C…「Electronic Commerce」の略語で、電子商取引のこと。インターネット上でモノやサービスを売買すること。

施策の方向

(1) 食の拠点・ブランドづくり

[現状]

- 加工施設の設備投資などの相談対応を行っています。
- 食関連事業者や生産者に対して、アドバイザーによる新商品開発に関する指導・助言を実施しています。また、経営に関する総合的なマネジメント等についての指導・助言を実施し、6次産業化、農商工連携の推進に取り組んでいます。

[課題]

- 食品加工（主に1次加工）を行う企業が不足しており、加工から商品化までを市内の企業だけで行うことができない場合があります。
- 新商品は開発されていますが、商品によっては売れ行きに差が生じています。消費者ニーズをとらえた商品開発を進める必要があります。

[施策の内容]

- 関係部署と連携し、食関連企業の誘致など食の拠点づくりを推進します。
- ふるさと納税プラットフォーム等を活用した商品開発を進め、消費者ニーズの視点に立った商品づくりの推進を図ります。
- 民間ECサイトを活用した販路の確保に取り組みます。

■ 関連計画

フードバレーやつしろ基本戦略構想



トマト



晩白柚



生姜

施策の方向

(2) 国内外の販路・連携体制づくり

[現状]

- アドバイザーや都市部派遣職員と連携し、食品製造メーカーやバイヤーなどに対し、農林水産物や加工品などの提案活動を実施しています。
- コロナ禍における新たな販路開拓のため、国内外の民間ECサイトへの登録推進、オンラインによる商談会を実施しています。また、海外輸出を検討している事業者を対象としたセミナーを開催しています。



くまもと県南フードバレーフェア IN 台湾基隆市

[課題]

- 本市の食関連産業においては、小規模事業者が多く、大手企業やメーカーが希望する数量への対応が個々の事業者等では困難な状況にあります。また、バイヤーより取引の窓口を1か所にできないかとの要望がありますが、対応できない状況にあります。
- 輸出を行う際は、税関の手続など専門的な知識が必要ですが、個々の事業者において対応することは困難な状況にあります。
- 新型コロナの発生により社会情勢、経済活動が変化しており、新たな販路開拓の取組が必要となっています。

[施策の内容]

- 物産館などを活用した地域商社的機能の構築に取り組みます。
- インターネットを活用したオンライン商談会や民間ECサイトなど、新たな商談機会の創出に取り組みます。
- 八代産農林水産物の認知度向上・需要拡大のためのPR事業に取り組みます。
- 八代港を利用する荷主の負担軽減を図ります。
- 中国向け丸太の輸出に必要な燻蒸費用について、継続して補助を行い、市産材の利活用推進に努めます。

■ 関連計画

フードバレーやつしろ基本戦略構想



イオンストアーズ香港 晩白柚フェアの様子



晩白柚出発式



オンライン商談会の様子

2

交流人口の増加によるにぎわいのあるまちづくり

Yatsushiro city

【41】

地域資源の魅力発信と観光の振興

関連 SDGs



施策の概要

本市特有の温泉、歴史的遺産、伝統芸能、山から海までの自然環境など、多様な地域資源を観光資源と位置づけ、観光客にとって魅力的な観光コンテンツの開発を進め、観光の振興を図ります。

成果指標

指標名	現状値 (R2)	目標値 (R7)
居住する地域での地域振興が活発に行われていると感じる市民の割合	-	30.0%
観光入込客数	2,169,748 人 ※ R1	2,170,000 人
収穫体験利用者数	135 人 ※ R1	320 人

施策の方向

(1) 八代の魅力発信

[現状]

- ヘルスツーリズム、リモートツアー、ララランチ・スタンプラリーの実施、SNSによる台湾・香港への情報発信等を行っています。



[課題]

- 日本遺産、港、球磨川、山の幸、海の幸、日本一の物産等の資源はありますが、その魅力の認知度を向上させる必要があります。
- 観光誘客につながるコンテンツを旅行商品とし、パッケージにしてプロモーションすることや、市内各地域における観光客の受け入れ態勢を整備する必要があります。
- 八代市観光ポータルサイト、八代市HP、DMOやつしろHP、やつしろの風、Facebookなど情報発信源が複数あるため、情報を整理する必要があります。

[施策の内容]

- SNSの活用やインフルエンサーを発掘・活用することで、情報発信力を高めます。
- 観光素材を組み合わせた旅行商品の開発を行うとともに、PR活動に努めます。また、各種講演会や研修会などを通じて地域の受け入れ態勢を整備していきます。
- 観光情報の整理や一元化を図り、利用者から見た利便性の向上に取り組みます。

■ 関連計画

八代市観光振興計画



開湯 600 年 日奈久温泉



八代舟出浮きの様子

施策の方向

(2) 地域資源の活用と観光コンテンツの開発

[現状]

- 本市特有の温泉、歴史的遺産、伝統芸能、山から海までの自然環境など、多様な地域資源の活用のための体験型観光や、滞在型観光の推進、四季を彩るまつり・イベント等、観光客にとって魅力的な観光コンテンツの開発を進めています。

[課題]

- 新たな観光コンテンツの開発、滞在時間を確保するための観光商品づくり、宿泊につながるイベント、体験観光、スポーツ大会などの充実を図る必要があります。
- 市内全域の均衡ある発展を図るため、地域固有の資源や特性を活かした地域の活性化に取り組んでいく必要があります。

[施策の内容]

- モニターツアーの実施等により商品素材のブラッシュアップと融合等を図り、消費者のニーズに合った商品開発を進めます。
- 収穫体験事業の実施希望事業者と受入体制等についての協議を実施します。
- サイクルツーリズムやマイカーなどを活用した個別型のツアー造成を推進します。
- 参加者・観覧者にとって魅力的なイベントとしていくため、知識・経験が豊富な民間事業者との連携を推進します。
- メディア等を活用した収穫体験事業のPR活動を実施します。
- ふるさと納税事業をマーケティングツールとして捉え、消費者のデータに基づく、雇用の創出、文化振興・地元産品の販促に繋がる持続可能な観光業を支援していきます。
- 球磨川とまちづくりが一体となった、新たな水辺空間の創出を進めます。
- 地域振興に関する拠点機能の充実と、地域特性や固有の資源を活かした地域振興策について、市民やまちづくり団体と協働で策定・見直しを行い、展開していきます。

■ 関連計画

八代市観光振興計画／フードバレーやつしろ基本戦略構想



各支所の祭りの様子（坂本・千丁・鏡・東陽・泉）

施策の方向

(3) 広域観光の推進

[現状]

- くまもと県南広域連携推進事業において、「くまもと☆みなみ」の統一的なキャッチコピーの下、物語性のある観光ルートの開発、多言語パンフレットを作成し、プロモーションを進めています。
- シトラス観光圏実施事業において、3市町の連携強化を図り、戦略・県内プロモーション、国内外プロモーション、海外の認知度向上のための取組を行っています。

[課題]

- シトラス観光圏においては、市民を含め認知度が低く、また、継続性のある事業が少ない状態にあります。ブランディングの方向性やマーケティングを再検討する必要があります。



ゆず収穫体験の様子

[施策の内容]

- 広域的な観光連携を強化し、柑橘類だけでなく圏域の魅力ある「歴史」「文化」「食」「自然」といった全ての観光素材の結びつきを深め、交流人口を増やし、認知度向上と地域の活性化に繋げていきます。

■ 関連計画

八代市観光振興計画



広域観光連携リモートツアーの様子

施策の方向

(4) インバウンドの推進

[現状]

- 多言語案内充実やWi-Fi整備などの受入環境整備やプロモーション活動を展開したことにより、外国人観光客数や観光消費額などに一定数の効果がみられました。
- 新型コロナ感染拡大によりインバウンド需要は大幅に減少しています。
- インバウンドについては、和のまちなみ空間整備、体験型観光の開発、多言語による情報発信等により受入れ環境の整備を行っています。また、専門人材の育成、後継人材の育成等によりDMOやつしろの機能強化を進めています。

[課題]

- 「新しい生活様式」が求められる中で、新たな観光ニーズに合わせた商品開発、特産品の販路拡大、サポートが必要となっています。

[施策の内容]

- アフターコロナにおける新たな旅の形、新たなニーズ、例えば、アドベンチャーツーリズム・ヘルスツーリズム・サイクルツーリズム・ラグジュアリーツーリズム等の観光コンテンツを開発し、外国人観光客誘致を進めます。

■ 関連計画

八代市観光振興計画



習字体験の様子 |



トレッキングの様子 (国見岳) |

Yatsushiro city

【42】

国際交流の拡充

関連 SDGs		 10 人や国の不平等をなくそう	 16 平和と公正をすべての人に	 17 パートナリシップで目標を達成しよう
---------	-----------------------------------------------------------------------------------	------------------------------------------------------------------------------------------------------	------------------------------------------------------------------------------------------------------	-----------------------------------------------------------------------------------------------------------

施策の概要

友好都市である中国北海市や台湾基隆市をはじめとする海外との様々な分野での交流を充実させ、市民の国際感覚を育む機会を創出するなど、国際交流の拡充に取り組みます。

成果指標

指標名	現状値 (R2)	目標値 (R7)
海外とのつながりや関わりが増えてきたと感じる市民の割合	-	37.0%
海外の文化や習慣に触れるイベント等の実施回数	16回 ※R1	20回

施策の方向

(1) 国際交流の拡充

[現状]

- 平成31年3月に「やつしろ国際化推進ビジョン」を策定し、「世界の笑顔が花咲く国際都市やつしろ」の実現に向けた取組を進めています。
- 友好都市との間で、青少年の派遣・受入れ、市民使節団の派遣、代表団の受入れなどの交流に取り組んでいましたが、新型コロナの拡大により、人の往来が制限され、これまでのような交流が行えない状況が続いています。

[課題]

- 友好都市をはじめ、海外の文化や習慣に興味を持ってもらうなど、市民の国際感覚を醸成する機会の創出が必要です。
- 海外との交流に当たっては、新しい生活様式の実践についても考慮しながら取組を進める必要があります。

[施策の内容]

- 市民の友好都市に対する認知度向上に取り組むとともに、市民が海外の文化や習慣に触れる機会の充実を図ります。
- オンラインによる交流など新たな形態も取り入れながら、友好都市をはじめとする海外との経済、教育、スポーツなど様々な分野での交流の充実に取り組みます。

■ 関連計画

やつしろ国際化推進ビジョン



八代市民使節団による友好都市訪問



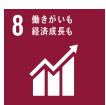
友好都市との青少年交流

Yatsushiro city

【43】

移住・定住の促進

関連 SDGs



施策の概要

都市部から地方への移住者が増加している中で、本市への移住が進んでいないという現状があります。移住希望者にとって魅力のあるまちづくりを推進するとともに、本市の強みや様々な取組をPRし、移住・定住の促進を図ります。

成果指標

指標名	現状値 (R2)	目標値 (R7)
人口社会増減率	△ 0.35%	△ 0.20%
転入者数	3,771 人	4,150 人
補助金交付件数実績 (累計)	0 件	20 件

施策の方向

(1) 移住・定住の促進

[現状]

- 新型コロナの影響による社会の変容等により、地方移住への関心が高まっています。
- 本市の移住・定住に関する支援制度や取組について、首都圏で開催される移住相談会やオンラインによる移住フェアに参加するとともに、市ホームページの特設サイトにおいても情報の提供・発信を行っています。
- 定住自立圏を構成する自治体と連携し、体験型の婚活イベントを実施するとともに、婚活事業を実施している地域団体の支援を行っています。

[課題]

- 移住希望者のニーズが多様化しており、ニーズに合った移住・定住に関する施策の展開が求められています。
- 移住希望者や本市に興味・関係のある方に対し、本市の魅力や都市部とのアクセスが良いという強み等の情報を的確に伝える必要があります。
- 定住に向け、結婚を望む市民に対し、多様な出会いの場や交流の場が必要となっています。

[施策の内容]

- 移住希望者のニーズの把握に努め、移住・定住に伴う経済的な負担を軽減する取組を行うなど支援の充実を図ります。
- 移住・定住に関しワンストップで相談等ができる窓口を設置し、本市の強みや移住支援の取組が、移住希望者へ明確に伝わるよう情報の提供・発信に努めます。
- オンライン等の活用やスケールメリットを活かした定住自立圏での事業展開など、多様な出会いの場や交流の場を設けることで、移住・定住を促進します。

■ 関連計画

八代市まち・ひと・しごと創生総合戦略

